

令和 6 年度 県立常陸太田特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆一人一人の学びを大切にする学校 ◆家庭や地域と共に歩む学校 ◆地域の特別支援教育の推進に貢献できる学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
・危機管理マニュアルに沿った避難訓練を中心とした防災教育の実施、熱中症対策ガイドラインの徹底を図り、安心安全な学校運営を行った。 ・「深い学び」の実現にむけて、実践と振り返りをとおして、授業づくりに取り組んだ。 ・「OTA キャリア教育プラン」の各部間の系統性、内容について検討した。 ・幼児教育施設や小中学校、高等学校からの依頼に応じて巡回相談や就学・転学にかかわる相談を実施し、地域へのセンター的役割を果たしている。 ・教育課程を見直し、小学部で「生活」、中高等部で「社会・理科」を位置づけた。 ・個に応じた各教科の指導の充実を図り、年間指導計画の指導計画等の見直しを行う。 ・多様なニーズに対応するため、巡回相談員の専門性を高めるとともに、校内における研修やケース会議の充実を図る。 ・各部・校務分掌部で業務改善に取り組む。働きやすさについて課題意識をもち、相談し合える環境や、休暇取得しやすくサポートし合える体制を構築する。	1 安全・安心な学校づくり	① 危機管理体制の整備 ② 地域と連携した安全管理 ③ 防災教育、健康教育の工夫 ④ 相談できる体制づくり ⑤ 保護者との連携	B
	2 確かな学力の習得	⑥ 各教科における授業づくりの充実 ⑦ 国語、算数・数学における新ステップシートの活用 ⑧ ICT活用した個別最適な学びの充実 ⑨ 自立活動の指導と関連を図った各教科等の指導の充実	B
	3 キャリア教育の推進	⑩ 社会に開かれた教育課程の取り組み（OTA ぶどうプロジェクト） ⑪ 地域と連携した系統性のあるキャリア教育の推進 ⑫ 社会人講師による地域の特色を生かした作業学習 ⑬ あいさつの励行	B
	4 地域の特別支援教育の推進	⑭ 心のバリアフリーを目指す交流及び共同学習の工夫 ⑮ 多様なニーズに応えるための巡回相談の充実 ⑯ 地域の特別支援教育を推進する体制づくり	A
	5 専門性の向上と働きやすさ	⑰ 教員としての専門性を高めるための研修会の充実 ⑱ 社会人としての資質能力を高める研修の充実 ⑲ 教員間でサポートしあえる体制づくり ⑳ 業務削減と休暇取得の推進	B

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	安全・安心な学校づくりの推進	・危機管理マニュアルの更新と活用 ・避難訓練、防災教育の工夫、健康教育の実施	①②	B	○市職員と避難所開設の動きの確認及び引き渡し訓練での本校の引き渡し場所の共通理解 ●各避難訓練の再度見直し ◇警備会社と連携を図り消火栓設備などの使用方法の確認 ◇体育館での引き渡し訓練の方法・内容を再度検討
	グランドデザイン努力目標の実現	・グランドデザインに基づいた教育計画の策定、教育計画策定に向けた意図の理解促進（会議等における指導・助言）	②③⑥⑦⑧⑨		○企画会で提案事項を吸い上げ実現に努めた。 ●企画会等の適切な回数の設定
教職員の 育成及び 指導・監督	教員としての専門性を高めるための研修会の充実	・外部専門家を活用した研修会の実施（授業づくり、自立活動、現職教育） ・学校研究及び計画訪問との連動 ・新ステップアップシートの活用 ・スペシャリスト教諭と連携した自立活動の指導の充実	⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱	B	○外部専門家やスペシャリスト教諭による研修会を実施し、計画訪問と連動して学校研究を進めた。 ●授業づくりに ICT を効果的に活用し切れなかった。 ◇ICT活用推進部との連携を強化する。
	学校としての組織的対応力の向上	・会議や話し合いにおける提案型の徹底 ・管理職、教務主任、部主事、学年主任、校務分掌部長など、計画的な業務遂行	⑱⑲		○企画会時に適宜提案者出席の工夫 ●会議内容の精選 ◇重点項目の精選
対外活動	キャリア教育の継続・推進	・OTA ぶどうプロジェクトの継続・発展 ・前年度反省を基に各部の仕事体験や現場実習を工夫・改善して実施 ・地域の事業所や商店会との連携により計画・実施	⑩⑪⑫⑬	B	○より多くの人がかかわれるように検討し実施できた。 ●例年通りの内容に変化をつけたい。 ◇より主体的に参加できるように内容の検討
	地域の特別支援教育を推進する体制づくり	・内容を工夫した学校間交流の実施及び合理的配慮を踏まえた居住地校交流の工夫 ・巡回相談、研修会の企画・運営、5歳児検診、子育て相談、発達検査	③⑮⑯		○地域の学校等と協力してスムーズに取り組むことができた。 ◇新事業を行うにあたって、さらに協

		等の実施 ・特別支援教育推進体制事業における、幼・少・中のコーディネーターとの協働			力的、計画的に取り組んでいく必要がある。
コンプライアンス確保	コンプライアンス意識の高揚	・職員会議や Classroom による服務規律の確保に向けた情報発信や時事的な内容を取り入れた研修内容の工夫 ・外部専門家を活用した研修会の実施（メンタルヘルスとコンプライアンスと）	④⑬⑱	A	○月 1 回以上研修を工夫し実施。外部専門家の研修も実施。部・学年での研修等での雰囲気づくりに努めた。 ●より自分事としてとらえる研修内容の工夫 ◇引き続き継続しての研修
	服務規律の確保	・教職員個々の状況確認をするための企画会メンバーとの情報共有 ・職員間で協力相談できる体制、雰囲気づくり（各主任等の育成、ケース会議の充実）	⑬⑱		
働き方改革	教職員の意識改革	・校内組織や業務内容の見直し、業務の効率化	⑱⑳	A	○ICT の活用等で業務改善を実施した。定時退勤日等での職員への言葉掛けの徹底 ●繁忙期等の職員負担の軽減 ◇柔軟な勤務体制の工夫
	改革促進のための業務量の縮減	・休暇取得や定時退勤に向けた取り組みの工夫 ・日常業務の ICT 化や見直し	⑱⑳		
I C T 活用	ICTを活用した個別最適な学びの充実	・ICT活用推進部を中心とした研修の実施 ・各部及び校務分掌部によるICT機器活用状況調査	⑧⑲	B	○教職員の活用状況を分析し、ニーズに応じた実技研修やオンデマンド形式の研修を実施 ●より個別最適な学びの充実につなげるための研修の企画・運営 ○業務が効率的に行うことができるクラウド環境の実現 ●今後も継続してクラウド環境を整備する。
	ICT機器の利用促進	・業務削減に成果のあるICTの活用 ・ICT 活用情報の発信及び共有	⑧⑳		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない